

【第2章】

カーペットの選び方と お手入れ方法



人が集い、人が暮らす。そしてほんと心を休める。それが住まいです。そんなやすらぎの空間づくりを、カーペットから考えてみてはどうでしょう。カーペットには暮らしを自由に、そして快適にしてくれる性能が備わっています。

1. 選び方のポイント（空間別）

マット、ラグ、カーペット・絨毯の違いはご存じでしょうか。おおよそ1畳未満をマット（キッチン、玄関）、1畳から3畳未満をラグ、3畳以上をカーペット・絨毯と呼びます。正しく理解し使い分けることが、より快適な暮らしに繋がります。

< 1 階 > 安全性を高め会話が弾む空間づくり



●ポイント

1階では、暮らしの中でも特に動くことを中心としたお部屋で構成されています。家族との団らんや、料理をしたりお風呂に入ったり…。ポイントは動く空間ならではの安全性や疲労軽減、また快適な時間を過ごすための肌触りや歩行感なども大切です。お手入れのしやすさや、用途に応じてフレキシブルに使えるなど、できるだけ長く快適に使用できるものを選びましょう。

①リビングー会話が弾むリラックス空間

リビングは家族が集まりくつろぐ時間がもっとも長い場所です。そんな場所だからこそ、床材選びにはこだわりたいところです。ソフトな肌触りのウール素材のカーペットを敷きつめたり、毛足の長いラグをソファの下や足元に置けば、素足でも気持ちよく、直接床に座ることができることからリビングはさらに居心地のいい場所になるでしょう。



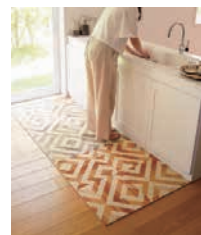
②ダイニングー気持ち良くお手入れ簡単

食事中、食べ物やお菓子類などをこぼしたりして、汚れやすい部位です。お手入れのし易い、フィラメント糸で毛足の短いループパイルが適しています。また汚れた部分を簡単に貼り替えができるタイル状のものや、テーブル脚の下などは、パイルが凹み易いので復元力のあるナイロン素材をおすすめします。



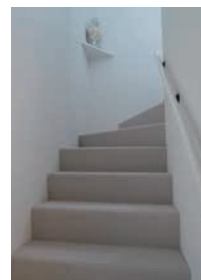
③キッチンー家事の疲労を和らげる

家事など立っている時間が長いキッチンは、足への負担や材料などをこぼしてしまい、床材を痛める可能性もあります。毛足が短く、抗菌・防臭・吸水性の高いマットを選ぶことで、衛生的なだけでなく、疲労軽減や部屋を長持ちさせることにもつながります。



④階段・廊下ーすべりや膝への負担を軽減

安全性が最も求められることから、毛足が短く糸の密度が高いガッチリとしたものを選びましょう。毛足の長いものや密度が粗いものは、糸が一定方向に寝やすいため滑りやすくなり危険です。



＜2階＞ 音や疲労を和らげ、健康的な暮らし

インテリアは快適な空間づくりを求める一方で、個性や志向を表現する手段でもあります。個室の多い2階では自分好みのデザインを選びながら、彩りある空間を演出するのも楽しみのひとつです。



●ポイント

2階では比較的静かに時間を過ごすことが多くなります。寝室での快眠や書斎での落ち着いた雰囲気など、心地よく過ごすための空間づくりが大切です。季節や気分で色柄選びを楽しんだり、階下への音を軽減したり照明の反射を抑えたりと、繊維床材の特性を最大限に生かせることがポイントです。服を着替えるように、インテリアで自分を表現してみましょう。

⑥寝室—快適な睡眠環境を整えるために

寝室は一日の疲れを取り、リラックスしながら明日への鋭気を養える大切な空間です。カーペット自体がハウスダストの舞い上がりや抑制したり、断熱保温効果や肌触り、静かさなどの良質な睡眠環境づくりを可能とする性能を持っていることから、寝室はカーペットの良さが最も活かされる空間とも言えます。ウール素材で敷きつめて上質感を演出したり、ベッドサイドにマットを敷くことだけでも冬場のヒートショックを抑えることができます。ブラウン色で家具と調和させたり、淡い色で空間にメリハリをつけたり、精神を安定させる効果のあるグリーンやパープルなど、デザインを選ぶこともメリットのひとつです。



⑦書斎—集中しながら創造力を生み出す

静かでリラックスできる環境は、睡眠以外にも、考えたり集中したりする場面でも必要となります。ループやカット仕上げのどちらを使用しても防音効果はあり、裏面にクッション性の高いフェルトを敷くことで更に静かさが高まります。椅子を頻繁に動かす場合は、キャスター走行性の良い、糸量の多いしっかりとしたループカーペットを選びましょう。

⑧子供部屋—防音と安全対策に

子ども部屋では音や安全面からカーペットやラグが有効です。ベッドから飛び降りたり、いすを左右に動かすなどの階下への音や転倒によるケガも軽減することができます。ラグやマットを使用することで楽しい空間を演出したり、カーペットを敷きつめれば素足のまま過ごすことができ、またお掃除もし易くなります。



⑨ベランダ—人工芝でガーデンを楽しむ

玄関周りや庭、ベランダなどに人工芝を敷くと、見た目が良いだけでなく、子どもが素足で遊んだり、ペットの散歩もできます。人工芝は、天然芝と違って水はけが悪く湿気が溜まったり、臭いの元になることもあります。人工芝の裏に水はけ用の穴がしっかりと開いているものが良いでしょう。



2. 選び方のポイント（目的別）

■選び方：その1「用途で選ぶ」

赤ちゃんにやさしい カーペットにしたい



赤ちゃんのいる部屋は清潔が何より。防汚加工で汚れにくいものや、抗菌防臭加工（SEK マーク）が付いたもの、また害はありませんが、ハイハイから繊維が口に入るケースもあるため、遊び毛の少ない合成繊維がおすすめです。敷き詰めタイプが安心できます。

子どもの成長に 合わせて選びたい



成長や志向性に合わせて気軽に換えられる、ラグやタイルカーペットがおすすめです。また敷き詰めであれば階下への音が軽減され、部屋の反響音も抑えられることから学習効果が高まります。カーテンやペットカバーと共に、好きな色柄を選んで子どもの個性を伸ばしましょう。

お年寄りがいるので 安心な空間にしたい



お年寄りには安全や健康への配慮が必要です。転倒による衝撃や寒さを緩和するために、できるだけオーダーカーペットによって敷き詰めたり、保温性や防炎性能の高い素材を選びましょう。ペットサイドにマットを置くのも効果的です。

大好きなペットと 快適に暮らしたい



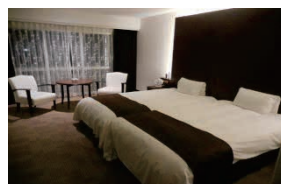
カーペットは人間と同じくペットにも優しい床材です。犬の股関節脱臼を防止できるのも繊維床材ならではの効果です。防汚や防ダニ加工、消臭機能のあるラグやタイルカーペットならば日常のお手入れも楽で安心です。爪で引っかいてもほつれにくいカットパイルがおすすめです。

ホームパーティーでの 汚れが心配



お手入れを楽にするには、汚れが付にくいことと、汚れても取り除けることの2点が重要です。撥水や防汚加工を施したものや、汚れた部分だけ手洗いができるタイルカーペットがおすすめです。テーブルの脚あとがつきにくいように、ヘタリの少なく耐久性の高いナイロンやウールを選びましょう。

ホテルのように 寝室でゆったり過ごしたい

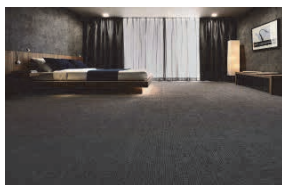


寝室はカーペットの良さが最も活かされる空間です。ウールカーペットなどの敷き詰めであれば、保温性や吸音性が高く、照明の反射が軽減されるなど理想の睡眠環境が作れます。家具やカーテンに合わせてコーディネートしたり、ペットサイドにマットを加えたりすることで上質な空間を演出できます。

2. 選び方のポイント（目的別）

■選び方：その2「種類で選ぶ」

空間に合わせて敷きつめる オーダーカーペット



カーペットの魅力をもっとも感じられるのがオーダーカーペットです。空間に合わせてサイズにすることで上質感や安心感が高まり、また豊富なデザインや機能性の中から選べることで、自分に合った空間づくりができます。長く飽きの来ないインテリアアブリに最適です。

並べて外せて収納できる タイルカーペット



タイルカーペットは一片が40～50cm四方のパネル状の商品です。空間に合わせて好きなデザインや枚数を並べたり、外して位置を変えたり、模様替えしたい場合には簡単に収納できます。また自分で貼ることもカットもできます。オーダーカーペットとラグ&マットの両方のメリットを生かした商品です。

用途に合わせて自由自在 ラグ&マット



リビングではソファの前でくつろぎ、キッチンでは足元の疲れを防ぎ、寝室ではベッドから降りる際の床の冷たさを軽減したりと、暮らしのさまざまなシーンで活躍してくれるのがラグやマットです。サイズもデザインも豊富で、好みのインテリア空間をつくることができます。

■選び方：その3「敷き方で選ぶ」

部屋の広さに合わせて 敷きつめる



カーペットをお部屋全体に敷き詰めたい場合は、お部屋のスペースに合わせて注文できるオーダーカーペットがおすすめ。好きな枚数購入できるタイルカーペットはお子様の食べこぼし、ベッドの汚れが付いた場合でもその部分だけ交換、手洗いができます。

好きな場所の一部に 敷きつめる



敷きつめるほどではないけれど、お部屋より一回り小さいカーペットを敷きたい場合はオーダーカーペットやタイルカーペットで自分のお部屋に合ったサイズをカスタマイズするのがおすすめです。

カーペットを部屋の アクセントにする



ソファやダイニングの足元に、お部屋のワンポイントとしてカーペットを敷きたい場合は、様々な種類、形を取り揃えているラグやタイルカーペットがおすすめ。家庭用タイルカーペットは機能性の面でも充実しておりダイニングなどにピッタリです。

3. お手入れ方法

カーペットはお手入れが大変そう。汚れたらどうしよう・・・と思いますせんか？正しい方法でお手入れを行えば、いつまでも清潔に保つことができます。ハウスダストを取り込んでいることが、効率よくお掃除ができることにも繋がります。

【普段のお手入れ方法】

お手入れの基本は掃除機をかけることです。まず粗ゴミを取り除いた後、掃除機を掛けます。その際、窓を開けて空気の通り道をつくり、掃除機の排気口は出来るだけ窓側（屋外）へ向けます。



掃除機掛けは、できれば週2回以上、ノズルをゆっくり動かして、1㎡当たり20～30秒かけます。普通のスピードの3分の1ぐらいで、同じ場所を2往復のイメージです。掛ける方向は、パイルを起こす方向でタテ方向とヨコ方向に掛けます。こうすれば空気の流れも良くなり、ゴミが取れやすくなります。乾燥した季節には、静電気が原因で、壁面の方にホコリが溜まりやすくなるので、忘れないように掃除機を掛けます。

月に1回は、固く絞った雑巾で水拭きをします。薄めた中性洗剤を使うとよいでしょう。そのあとは、すすぎ（お湯だけで固く絞った雑巾で）を忘れないようにしてください。洗剤が残っていると、汚れやすくなります。

汚れがひどくなった場合には、専門のクリーニング業者にご相談ください。



【シミ取り方法】

カーペットについたシミは、時間が経てば経つほど取れにくくなります。家庭でできる範囲でのシミ取り方法をご紹介します。また、ごしごし擦らずに、タオルで叩いたり、押し付けたりして取るのが秘訣です。

◆シミの判別とシミ取りの手順、注意点

(1) 何かをこぼしたら、まず・・・・・・・・

- ①液状のものなら、すぐに乾いたタオル（白色）やティッシュで吸い取ってください。
- ②マーガリンのようなドロドロしたものなら、フォークやスプーンなどで除去するか、つかみ取ってください。
- ③粉状のものは、真空掃除機で吸い取ってください。

(2) 次に、シミの種類を確かめる・・・・・・・・

シミが水性のものか油性のものによってシミ取り方法も違ってきます。濡れタオルの端をシミに当て、シミが移ってくるようなら水性のシミです。どちらか分かり難い場合は、油性のシミ取り方法で取ってください。

(3) 洗剤やベンジンは少しずつ・・・・・・・・

シミを取るために使用する洗剤やベンジンも、シミの原因になりますので、洗剤は必ず水で十分に薄めて使用してください。

また、ベンジンも少しずつ使うようにしてください。市販のシミ取り剤には、「油性用」「水性用」がありますが、全方位のものもあります。

※注：ベンジンは、使用するごとに、容器のフタを閉めてください。

(4) 洗剤は、「中性洗剤」で・・・・・・・・

酸性やアルカリ性の洗剤は、パイル繊維を変質させたり、変色させたりするので、使用厳禁です。

市販の中性洗剤の例・・・・・・・・ ・「モノゲンユニ」（P & G社製）

・「エマール」（花王社製）

・「アクロン」（ライオン社製）

(5) 洗剤やシミ取り剤は、カーペットに直接付けない・・・・・・・・

いずれのシミ取り剤も、カーペットに直接作用させるのではなく、タオルに少量ずつ付け、シミ部をたたいてシミをタオルに移します。また頑固なシミは一度に取ろうとせず、繰り返し少しずつ丹念に取ることが肝心です。



(6) シミを広げない・・・・・・・・

必ず、シミを周囲から中心に向かって拭き取ってください。結果を急いでシミ取り剤を多量にしようすると、シミを広げることにもなりかねません。

(7) 水分や洗剤を残さない・・・・・・・・

洗剤で拭いた後は、固く絞ったタオルで洗剤分を完全に拭き取り、少量の水分を含ませたティッシュで拭き取ったうえで、更に乾いたタオルで水分を吸い取って下さい。洗剤が残っていると、再度汚れの原因になります。最後にパイルの方向をブラシ等で揃えながら、扇風機などで乾燥させます。それによって、色流れによる変色を防止ことができます。

(8) 漂白剤や消毒剤は厳禁・・・・・・・・

カーペットの色が変色したり、脱色したりする場合がありますので、使用しないでください。

引用資料

- ・「床仕上げ施工科テキスト カーペット編」(日本室内装飾事業協同組合連合会：平成6年)
- ・「カーペット入門編」((一社)日本インテリアファブリックス協会：平成10年)
- ・「新時代のカーペットメンテナンス」((一財)建築物管理訓練センター：平成21年)

●長持ちの秘訣、先ずは湿気を含ませないこと

カーペットを長持ちさせるために大切なことの一つは、湿気を含ませないように保つことです。ふだんから家全体の風通しを良くし、湿気がこもらないように気をつけます。天気の良い日には窓をあけ、電気掃除機をかけます。この後、置き敷きカーペットやラグなら、裏返しにしたり、下に椅子などをさしこんで、裏側にも風がとおるようにすると効果的です。カーペットをよく乾燥させておくと、ほこりがとれやすく、パイルの傷みも少なくなります。

●カーペットを屋外に干すときの注意点

丈夫な物干し竿に、先ず表を向けて干します。日光による退色を考えて、かならず日陰に陰干しします。ある程度湿気がとれたら、ふとんたたきで良くたたき、中のほこりを出します。次に裏返して干します。両面あわせて、2～3時間くらいで良いでしょう。取り入れた後は、両面に掃除機を丁寧にかけます。干している間、カーペットを敷いてあった場所を掃除し、風を通しておくことを忘れないで下さい。

●使っていたカーペットを上手にしまうには

晴れた日を選んで行います。特に何日間か晴れた日が続き、空気に乾燥した日がベストです。まず、カーペットを裏向けにして、屋外で陰干しします。一日中干しておくで湿気が抜けて軽くなります。ふとんたたきで裏面表面を丁寧にたたき、さらに両面を丹念に掃除機をかけます。この乾燥をきちんとやっておかないと、カビの原因になるので要注意。

きれいなクラフト紙で包み、風通しの良い乾燥した場所に立てて保管します。除湿剤の利用も効果的です。半年に一度は、広げて虫干ししましょう。

●パイル（カーペットの毛）が飛び出したときは

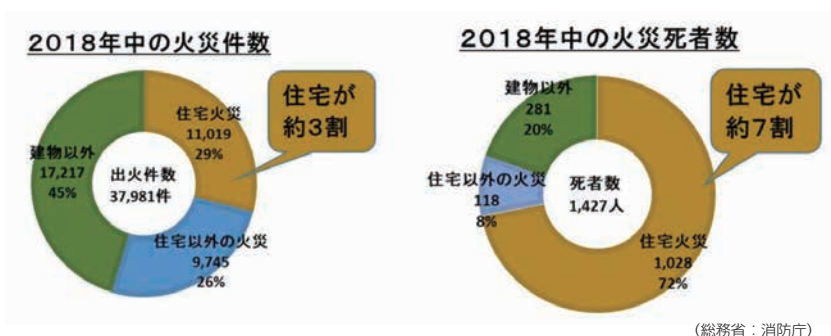
先ず、飛び出したパイルを絶対に引っ張らないこと。ほつれたパイルを、はさみで周囲と同じ高さに切り、瞬間接着剤を、切ったパイルの根元に染み込ませてください。

4. 防災品について

●不始末による住宅火災では「たばこ」の消し忘れが多い

火災事故はほぼ毎日のように報道されていますが、全火災のうち、住宅火災件数が約3割を占め、死者数では約7割を占めています。(図1)

(図1)



現在では、住宅への火災報知器設置が義務化されて以降、火災件数は減少していますが、死者数（特に高齢者）は微増傾向にあります。内装材と関わるケースでは、図2のように住宅火災出火では「たばこ」の不始末が主な原因となっています。

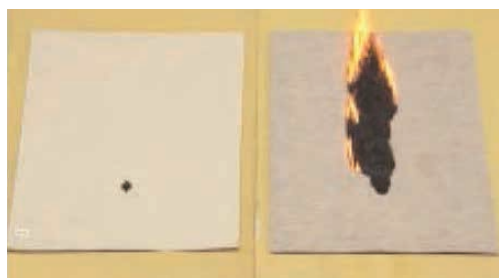
(図2)



●カーペットは燃えにくく、燃え広がり難い床材

消防法では「高層建築物や不特定多数の者が出入りする建物では、火災の発生及び火災拡大を防止するために、布製品などは<防災加工>を施した物品を使用すること」と定められています。個人住宅では高層マンションでない限り使用義務はありませんが、住宅火災の要因が「たばこ」によるものが多いことから、身近で使用するカーテンやカーペットに燃えにくいものを選ぶことは、命を自ら守るという行為からも必要と言えます。

下の写真は、左が防災性能のあるもの、右が防災性能が無いカーペットサンプルのそれぞれに着火させ、8分経過した際の燃え方を実験したものです。例えば、就寝前にカーペットに坐ってたばこを吸い、火種がカーペットに落ちたことに気づかず寝てしまい、時間と共に燃え広がったという実証ですが、防災性能が付与されたカーペットであれば、万一このようなことが起こっても、燃え広がらず、被害も最小限で済むことが分かります。



㊤防災性能の有るもの
㊦防災性能の無いもの
(着火後8分経過の状況)

出展：(公財) 日本防災協会HP

消防法で、防災性能の基準に合格したものには「防災ラベル」の付与が許可されます(「防災物品」と呼ぶ)。このようなことから、安全・安心のためにも、カーペット購入の際には、防災物品のカーペットをおすすめします(「防災ラベル」が付けられています)。

また、(一社) 日本インテリアファブリックス協会では、消防法の合格品に対し、独自の防災マークを制度化しています。

